ご使用者様向け

取 扱 説 明 書

懸垂幕装置「メディアタワー」下手巻式

（MTSTーAL 型）

・ご使用になるお客様に必ずお渡し下さい。
・お客様はご使用になる前に、必ずお読み下さい。

取付け前の用意とチェック

① 広告幕

・幕固定用のハトメの数は（バトン数×2＋2）個　必要です。ハトメのピッチは 1600mm 以下になるようにしてください。
・幕をバトンに取付ける為の丈夫なひもをご用意ください。ひもはハトメと同じ数必要です。

② 安全帯

・万一の転落防止のために装着してください。

③ 踏み台か脚立

・ハンドル操作位置が高所の場合、転落防止のため安全帯を装着し、安定した踏み台で作業を行ってください。

幕の取付け方法

①幕を取付ける前に、転落防止のため、安全帯を丈夫な手すり、または装置の桟に固定し、必ず安全を確認してから作業を行ってください。

②ウインチハンドルをウインチに差し込み、ちょうボルトで固定します。【写真 2】

③幕の最上部のハトメと誘導バトンのフックを丈夫なひもではずれないよう結束します。
【写真 3】

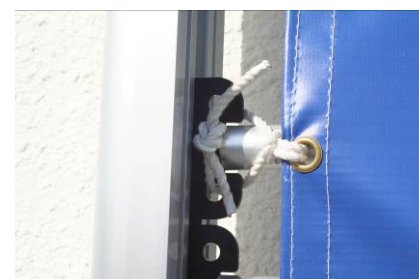
④上から 2 番目の幕固定用のハトメが中間バトンの位置に来るまで幕を巻き上げ、写真のように、丈夫なひもではずれないよう結束します。【写真 4】

⑤同じ要領で残りの中間バトンにも幕を結束します。ひもは緩みがないようにしっかり結んでください。

⑥全てのバトンに幕を結束したら、幕の最下部のハトメをアイボルトに写真のように結束してください。
【写真 5】

【写真 1】部品名称

【写真 2】ウインチハンドル

【写真 3】誘導バトンとの結束

【写真 4】中間バトンとの結束

【写真 5】アイボルトとの結束

⑦誘導バトンを巻き上げて幕を張ってください。

注意

・誘導バトンがストッパーに当たる手前で、幕が張っている状態が正常な状態です。幕が張らない場合は、幕が長いためです。
幕の下側で高さ調整してください。

・必要以上にハンドルを回すとブレーキがきき過ぎ、ウインチが故障します。きき過ぎてハンドルを反時計回りに回しても回らなくなった場合は、木片等で衝撃を与えて回してください。その際衝撃でハンドルが回りすぎる事があるので注意してください。

⑧幕の装着が完了したら、危険防止のため、ウインチからハンドルを抜いて、所定の場所に保管してください。
【写真 6】

注意

・取付けたままですと、イタズラまたはボルトのゆるみ等で、落下する原因になります。

これで幕の装着は完了です

ハンドルは抜いて、所定の場所に保管してください

幕を降ろす時

ウインチにハンドルを取付け、ハンドルを反時計回りに回し、幕を降ろしてください。

注意

・幕が降りたら、それ以上ハンドルを回さないでください。必要以上にロープを出すと、ロープがたるみ過ぎ、もつれる原因になります。

⚠ 注意及びメンテナンスについて

・ 強風時(風速15m／s以上の時)は、速やかに幕を降ろしてください。
取付けたままですと、幕・装置・壁が破損することがあります。
・ 幕を上げる際、ワイヤーが乱巻きや片巻きにならないよう確認しながら操作してください。
・ 長期間幕を取付けない時は、危険防止のためバトンを装置下部まで下げて、
バトン全部の両端をひもで縛ってください。
・ 幕は全部のバトンに丈夫なひもで完全に結束してください。
・ 複数の懸垂幕装置にまたがって1枚の幕を取付ける場合、必ず全てのバトンフックに幕を結束して下さい。
幕の両端部だけの結束で使用しますと装置の故障に繋がります。
また幕の上げ下げは、全てのウィンチを同時に操作して行って下さい。
・ 間引き固定をした場合、幕の破損につながる恐れがあります。
・ 完全に固定しないと雨や風でひもが緩むことがあります。
・ 作業時、工具等を使用する時には、ひも等を使って落下防止の処置をしてください。
・ 強風後、ボルト・ナットの緩みがないか点検し、締め直してください。
・ 本体(メディアタワー)と躯体との間に緩衝用ゴムを使用されている場合、ゴムの劣化によるボルト・ナットの緩みが考えられますので定期的に検査をし、緩んでいる場合は締め直してください。
・ 年に一回は定期点検を行い、各部の破損が無いか確認し、ボルト・ナットの増し締めを行ってください。
・ 汚れた時は中性洗剤をぬるま湯でうすめ、柔らかい布やスポンジで軽く拭取ってください。
洗剤は完全に洗い流してください。
・幕をつけずに誘導バトンの昇降を行わないでください。

※この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
※この取扱説明書はお読みになった後、大切に保管してください。

㈱ダイケン　岡山工場
TEL　086－297－2301